

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでカラー版が御覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

★ 平成26年度 一日教育委員会（教育懇談会） 開催 ★

10月29日（水）身延町総合文化会館で山梨県教育委員会主催『山梨県一日教育委員会（教育懇談会）』が開催されました。グローバル化、少子高齢化、社会のつながりの希薄化、安全・安心に対する意識の高まり等、教育を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。教育行政に県民の意向を反映し、教育行政への参画・協力を促進するためには、県民に対して幅広く積極的な情報提供を行い、県民の教育行政に対する意見を的確に把握し対応することが求められています。このため、教育委員が県民と直接意見交換をする場を設け、教育行政に係る様々な課題等について県民の意見、要望等を直接聴取し、今後の教育施策の推進に資することを目的に、教育事務所の管轄区域ごとに隔年で一日教育委員会が実施されています。当日は峡南地域の学校の保護者、町教育委員会関係者、住民等100名と県教育委員会からは教育委員4名、教育長、教育次長、次長、各課課長、峡南教育事務所長等総勢33人が出席しました。石川洋司教育委員長の挨拶後、各教育委員、教育長、各課室長等の自己紹介がありました。引き続き阿部邦彦教育長から、本年度の県教委主要施策の概要説明があり、出席者との意見交換が行われました。出席された保護者からは、35人学級、特別支援教育、いじめ・不登校対策、エネルギー教育推進事業、スーパーサイエンスハイスクール事業、部活動、学力向上推進事業等における質問や意見がありました。



平成26年度山梨ことぶき勸学院 勸学院祭



10月16日（木）、コラニー文化ホールにおいて、第28回勸学院祭が開催されました。今年のテーマは、「次世代へ いかせ知恵の輪 勸学院」。開会行事後、山梨県内6教室1・2年生の発表がありました。

峡南1年教室は午前、歌と寸劇を交え「学生時代」「明日があるさ」「見上げてごらん夜の星を」を発表しました。コミカルな若き恋愛風景が観客の皆さんの笑いを誘い、拍手の渦に巻き込まれました。また、峡南2年教室は午後、リズム健康体操集団ダンスで「二輪草」「長生きサンバ」を発表しました。ダンスのリズムもぴったり合い、練習の成果が100%発揮された素晴らしい発表になりました。相河竜治県社会教育課長は、講評で「1年生は、すべての場面で笑いが巻き起こりました。2年生は、若き健康あふれる最高のステージでした。」とお褒めの言葉を述べられました。

峡南教室の生徒の皆さんは大変感激していました。



峡南1年教室



峡南2年教室



☆☆連載特集『峡南地域の食材』No. 6

「峡南保健所管内食生活改善推進員協議会」

1 峡南保健所管内食生活改善推進員協議会とは

峡南保健所管内食生活改善推進員協議会は、1967年（昭和42年）身延保健所管内栄養改善推進協議会として発足し、2017年（平成29年）には50周年を迎えます。峡南5町の食生活改善推進員会の統括組織であり、会長他役員は17名です。会員の資質向上を図ると共に、実践活動を通じて地域住民の健康増進に寄与することを目的として活動しています。研修会、講習会の開催や地域の食生活改善に関する調査研究及び資料作成、本会発展に寄与された方々の表彰等を行っています。

2 スローガン

「私達の健康は私達の手で」。私達はボランティア活動の精神に徹し、このスローガンの実現に努めます。

3 活動目標

地域に根ざした山梨の「郷土食」を食事バランスガイドに取り入れ次世代に伝える活動を全町協議会で進めることを重点目標とし「健やか山梨21（第2次）」の推進、メタボ予防の正しい知識の普及、食糧資源を大切にする「エコクッキング」推進などを活動目標とし事業を進めています。

4 日本食生活協会からの委託事業

（1）生涯骨太クッキング講習会

ロコモティブシンドローム予防活動や牛乳・乳製品を取り入れた調理実習により「カルシウム不足」の改善などを目的とし講習会を開催します。

（2）おやこの食育教室

味覚や豊かな感性を培い心身のバランスのとれた人格形成に寄与するため、体験学習を通じて広く食育について学ぶと共に共食の大切さを感じ取ってもらうことも大きな目的としています。

（3）男性のための料理教室

料理経験の無い団塊世代を中心に、単身になっても慌てることのないよう自主支援と生活習慣病予防をテーマに生涯食育をめざします。

（4）『ヘルスマイトが「TUNAGU」（繋ぐ）パートナーシップ事業』

「ヘルスマイトリーダーの養成」と「家庭訪問による減塩チェック」を実施し、長野県食生活改善推進員型のノウハウを参考に、組織力と行動力を拡大し健康寿命の延伸を図ります。

5 生涯骨太クッキング研修会

9月10日（水）、峡南保健所栄養室にて役員さん他23名で今年度2回目の研修会、生涯骨太クッキング学習及び調理実習が開催されました。講習会では、ロコモティブシンドローム（関節や筋肉などの運動器が加齢の影響により衰えている、また、衰えは始めている状態）予防方法、健康寿命（介護を必要とせず、健康で日常生活を支障なく送ることができる期間）の延伸について説明がありました。つづいて、「ごはん」「鮭と大根和風スープ」「豆腐と野菜のチーズチャンプルー」「パインのアップルサイドダウンケーキ」の4つの料理づくりの説明があり、調理実習を行いました。



平成26年度峡南保健所管内
食生活改善推進員協議会
会長 加藤 淑子 様（中央）
副会長 保坂 勝美 様（←左）
副会長 佐野 明子 様（右→）



おいしいごはん



鮭と大根和風スープ



チーズチャンプルー



サイドダウンケーキ



早川南保育所と早川南小学校の交流活動

保育所から小学校へのスムーズな接続を求めて ～一緒に遊び、学んで、つながりを深めよう～



保小の交流の様子

早川南小学校（中山栄二校長）では、今年度から県幼児教育振興事業「保幼小連携教育」に取り組み、連携・交流活動の一環として、地元、早川南保育所との交流活動を行っています。保育園児13名と小学1年生（1名）・2年生（4名）の児童との交流です。

活動のねらいは、【園児として】小学校の児童と交流したり、小学校の生活に触れたりしながら、入学時の負担を軽減し、小学校生活への理解と期待を深める。【児童として】園児と触れ合うことで、自身の成長に気付き、年下の子に対する思いやりの気持ち

をもつ。【指導者として】話し合いや交流活動を通して、指導のあり方や考え方を学び合うことにより、相互理解を深め幼児教育と小学校教育との繋がりを滑らかにし、それぞれの指導に生かす、です。具体的には、園児や児童の双方に実りのある交流活動になるよう、主に年4回（保育園でのゲーム・小学校でのゲーム・秋祭り・1年生は楽しいよの会）の交流の場を設けました。

10月28日には白根桃源文化会館において、県義務教育課主催の「峡南・中北地区保・幼・小連携教育研修会」が開催され、山梨県幼児教育研究委員会委員を務めている斎藤信子教諭（早川南小学校）及び廣島美香保育士（早川南保育所）の2名による実践発表がありました。その後の意見交換では、小グループになり、連携についての話し合いが行われました。後半は、山梨大学教育人間科学部の中村和彦教授の講評や「健やかな育みのための保幼小連携のあり方」と題し、保・幼・小連携教育の重要性や今後の連携・交流活動の進め方についての講演がありました。



実践発表の様子

峡南高校 学園祭 「峡香祭」

11月8日から3日間にわたって開催された峡香祭は、“ものづくり”と“おもてなし”の心意気が随所にみられる学園祭でした。テーマは「LINK～十組十色のつながり～」を合い言葉に、65回目の伝統を受け継ぐ、華やかな行事となりました。1日目は開会式後、各学年クラス発表、2日目は模擬店・カラオケ大会・PTAバサー等、3日目は体育祭が行われました。模擬店の充実を行うこともできるようになりました。大変活気溢れる学園祭でした。



増穂商業高校 学園祭 「緑誠祭」

11月7日から2日間開催された緑誠祭は、今年59回を迎え、盛大に開催されました。テーマは「楽しさ×笑顔＝増商REVOLUTION」。初日は開祭式に続いて、文化部の発表やクラス発表が行われました。個人によるステージ発表もあり、体育館はとても盛り上がった空気に包まれました。2日目のメインは何と言っても“増商デパート”。午前10時15分を過ぎると体育館と中庭の各店舗が一斉に開店。すぐにどこもお客さんで大賑わいとなりました。



身延山高校 学園祭 「延山祭」



全校生徒による大法要

身延山高等学校では、11月1日に学園祭「延山祭」が開催されました。テーマは、「1分1秒思い出の時」です。オープニングは、生徒全員による開式法要

です。大合唱が身延の山々にこだまし、開会の時を告げました。いよいよ11人の弁士による弁論大会。「家族の大切さ」「感謝の心」など、溢れ出る熱い思いを語りました。会場のあちこちから嗚咽が漏れるなど、感動と感激の余韻が残る素晴らしい発表でした。そのほか、雅楽の演奏・バザー・お茶会・もちまき・手話パフォーマンス等々、最後まで熱気と感動に包まれた学園祭でした。



代表生徒による弁論大会

わかば支援学校ふじかわ分校

「ふじかわ分校まつり」

11月1日、わかば支援学校「ふじかわ分校まつり」が開催されました。美しく飾られた会場には、早朝より保護者や近隣住民の皆様が多く訪れていました。開会行事の後、まず、小学部「ふじかわさるかに合戦」の発表がありました。魔女や蜂、トッキュウジャーなどが登場するオリジナルな内容で、一人一人の個性が発揮できるような楽しい演出がなされていました。次の中学部「Challenge」の発表では、周辺地域の施設見学、修学旅行の思い出などChallengeした様々な学習の成果を披露していました。また、販売コーナーでは、手作りのリースやランプ、手焼きの皿などが並べられていました。当日、鵜沢中学校の生徒5名がボランティアとして会の片付けに協力していました。和やかな雰囲気の中、人の温かさを感じる「分校まつり」でした。



子育て支援リーダー・ステップアップ講座修了

県教育庁社会教育課が山梨県立大学と連携して行っている「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」に峡南地域から5名(市川三郷町3名・富士川町1名・身延町1名)の受講者が参加しました。この講座は、地域で子育て支援活動をしている方を対象に、その中核を担う人材の育成を目指して実施されているものです。県立大学の飯田キャンパスを会場に、6月から10月までの間に10回の講座が開かれました。ファシリテーター(世話人)として今年度も県立大学の池田政子特任教授と高野牧子教授を迎え、講義とグループワークによる学習を重ねてきました。講義の主な内容は、①子育て支援の現在と課題②家庭教育支援の技術③児童虐待とDV④発達障がい支援⑤家族の今⑥これからの支援⑦やまなし「親」学習プログラム活用、の7つのテーマであり、この他に3回のグループ別自主研修会とグループ別研究発表会を加えて、全10回のプログラムを経て修了となりました。



このうち、グループ別自主学習では、地域別に作られた6つのグループがそれぞれ地域の課題を探った上で、その課題解決のための研究に取り組みました。10月24日の最終日には、それぞれの班が自主学習の成果を発表しました。



峡南地域の参加者による6班は、「遊びから学ぶ」をテーマとして「0才児から3才児までの子どもの遊び」について、研究を進めました。まず初めに、それぞれの職場に通う親御さんからアンケート調査をする中で、保護者が悩んでいる4つの課題が見つかりました。①初めての子なので関わり方がわからない②大勢の中で遊べない③子ども同士で遊ぶことが少ない④「ありがとう・ごめんなさい」などの挨拶ができない、それらの課題を解決すべく、メンバーがそれぞれの職場で、

子ども達ができそうな遊びを集め、実践を行いました。各職場で行った遊びを一つにまとめ、発表会に臨みました。また、遊びの4つの効用も紹介しました。①いろいろな遊びを通して子どもの発達を促し親子の絆を深める②遊ぶことで社会性や協調性を学ぶ③日常のストレスを発散させ情緒を安定させる④友達とのやりとりは、社会へ適応する力、人を思いやるといった情操や感性を育む、についてです。他の班からは「早寝・早起き・朝ご飯で元気な子」「支援センターのあり方」「母親同士がつながるための支援者の役割」等がプレゼンされました。それぞれの班が貴重な成果を披露した発表会になりました。

閉講式では、受講者に修了証が授与されました。今回修了証を手にした方々は、各地域において子育て支援活動を推進していただくこととなります。来年4月1日からは「子ども・子育て支援制度」も本格スタートします。新制度の下、各地域での活躍を祈念しています。



南部町老人運動会と保幼連携



10月24日、秋晴れの中、南部町老人運動会がアルカディア南部総合運動公園で開催されました。南部町内23の老人クラブから640名が参加し、10チームに別れ熱戦を繰り広げました。開会式後、プログラム2番目に園児の遊戯があり、老人クラブの方々と南部町保育園児64名(栄・睦合・富河・万沢)とが手を繋ぎ「げんきでね」という遊戯をしました。参加した方々だけでなく、観覧されていたすべての皆さんが喜びと感激の渦に巻き込まれました。また、肩たたきの場面で、老人クラブの方々は、満面の笑みを浮かべていました。つづいて、みどり幼稚園児24名によるマーチングバンドが行われ「カントリーロード」「きよしのズンドコ節」が披露されました。マーチングバンドの振り付けとリズムが一体となり観客を魅了しました。すばらしい演奏でした。プログラム4番目に老人クラブの方々と園児が一緒に大玉を転がす競技があり、皆さん大満足の様子でした。

